

# 平谷こども発達クリニックにおけるディスレクシアの取り組み

～ 福井県特別支援教育センターとの連携 ～

## 【企画の趣旨】

LDはDSM-5で限局性学習症（Specific Learning Disorder:以下SLD）としてその概念は大きく拡大された。発達性ディスレクシア（Developmental Dyslexia:以下DD）はSLDの中核的な疾患であり、診断基準が整備されその疾患概念もかなり明確になった。さらに、2010年に診断・治療のためのガイドライン（特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン 稲垣他：2010）が提唱されてから診断事例が急速に増えている。平谷こども発達クリニックでは2001年の開設以来LDを重要なテーマとして診療・療育に力を注いできた。診断例は2002年の第1例以来すでに350例を超え、数年前から診断例は激増している。

## 【これまでの本学会でのDD関連自主シンポジウム】

第23回 (2014)

発達障害に特化した民間こども発達クリニックのLDへの取り組みと提言  
～早期発見とその後の“支え”を中心に～

第24回 (2015)

学習障害のある児童が見せる臨床症状の経年的移り変わり  
～発達クリニックでの継続した支援を通してみる義務教育期間中の移り変わり～

第25回 (2016)

限局性学習症の“限局性”について考える  
～全般的な知的能力との関係との関係を中心に～

第26回 (2017)

限局性学習症の日常生活に目を向けて  
～教科学習以外で生じる困難と支援～

第27回 (2018)

平谷こども発達クリニックにおけるディスレクシアの取り組み  
～福井県特別支援教育センターとの連携～

## 【これまでの我々の発表内容】

- ①DDは、注意欠如多動症や自閉症スペクトラム症と高い頻度で併存
- ②知的水準がやや低い、境界線級知能あるいは軽度知的障害にもDDと判断しうる児童が存在
- ③幼児期から療育を受けている児童で就学後にDDと診断される児童も少なくない
- ④DD・ASD・ADHDにみられる書字困難について検討が必要
- ⑤教育場面での合理的な配慮が徐々に浸透しつつあり、医療と教育の連携が重要

## 【本日の発表者・発表内容】

- 1、クリニックでの診断例のまとめと療育支援  
平谷こども発達クリニック 平谷美智夫
- 2、発達性ディスレクシアの早期発見のためのツール開発  
上智大学大学院言語科学研究科 原恵子
- 3、ディスレクシア児童を対象とする学習支援室  
平谷こども発達クリニック 竹内正宏
- 4、福井県特別支援教育センターにおけるDD支援の取組  
福井県特別支援教育センター 為国順次

企画者 : 山名 寿美子 (平谷こども発達クリニック)

司会者 : 山名 寿美子

話題提供者 : 平谷 美智夫 (平谷こども発達クリニック)

原 恵子 (上智大学)

竹内 正宏 (平谷こども発達クリニック)

為国 順次 (福井県特別支援教育センター)

## 【これまでの本学会でのDD関連自主シンポジウム】

第23回 (2014)

発達障害に特化した民間こども発達クリニックのLDへの取り組みと提言  
～早期発見とその後の“支え”を中心に～

第24回 (2015)

学習障害のある児童が見せる臨床症状の経年的移り変わり  
～発達クリニックでの継続した支援を通してみる義務教育期間中の移り変わり～

第25回 (2016)

限局性学習症の“限局性”について考える  
～全般的な知的能力との関係との関係を中心に～

第26回 (2017)

限局性学習症の日常生活に目を向けて  
～教科学習以外で生じる困難と支援～

第27回 (2018)

平谷こども発達クリニックにおけるディスレクシアの取り組み  
～福井県特別支援教育センターとの連携～

# 【企画の趣旨】

## 【企画の趣旨】

LDはDSM-5で限局性学習症（Specific Learning Disorder:以下SLD）としてその概念は大きく拡大された。発達性ディスレクシア（Developmental Dyslexia:以下DD）はSLDの中核的な疾患であり、診断基準が整備されその疾患概念もかなり明確になった。さらに、2010年に診断・治療のためのガイドライン（特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン 稲垣他：2010）が提唱されてから診断事例が急速に増えている。平谷こども発達クリニックでは2001年の開設以来LDを重要なテーマとして診療・療育に力を注いできた。診断例は2002年の第1例以来すでに350例を超え、数年前から診断例は激増している。